

| 受理番号及び 受理年月日 | 所 管 | 件 名 及 び 要 旨 | 提 出 者 |
|----------------------|------|--|---|
| 29年－35 (29.10.30) | 地域振興 | <p>公立鳥取環境大学及び鳥取大学の学生を対象とした日本交通株式会社と日ノ丸自動車株式会社の共通定期券の制度化を求めることについて</p> <p>▶陳情理由</p> <p>平成27年3月30日に公立鳥取環境大学と日本交通株式会社（以下「日本交通」という。）が「公共交通の活用に関する協定」を締結・調印したことにより、現在、公立鳥取環境大学においては、私たち大学生が学生証を見せると、平日は大学を通る日本交通の路線バス、休日は鳥取駅を起点とする日本交通の鳥取県東部地区の全路線バスについて、学生負担なしで利用できる環境が整っている。</p> <p>これにより、鳥取砂丘や浦富海岸をはじめとする岩美方面、若桜鉄道沿線の八頭・若桜方面には学生の負担なく行くことができるようになった。結果として、大学生にとっては、これらの地域に足を運びやすくなり、フィールドワークや地域活動、調査研究の利便性が向上した。また、観光地やイベント、祭に出かけて賑わいを創出するなどにより、沿線地域の地域活性化をもたらしている。</p> <p>しかし、公立鳥取環境大学は現状として日本交通としか協定を結んでおらず、千代川西岸地域や国道53号線沿いの日ノ丸自動車株式会社（以下「日ノ丸自動車」という。）の路線バスを利用する際には、正規の料金を払わなければならない。お金のない大学生にとって、交通費は、大きな負担になる。</p> <p>加えて、鳥取では都市部のように同一料金区間なども設定されていないため、路線バスを利用しにくい現状がある。例えば、路線バスで鳥取駅から用瀬に行こうとすると往復で1,120円がかかり、鳥取駅から智頭町へ行こうとすると往復で1,340円がかかる。よって、このような地域には、大学生が自動車か自動二輪車を持っていない限り、調査研究やフィールドワーク、学外活動、イベント等で足を運ぶのをためらってしまうことが多いのも事実である。実際に、鳥取市用瀬町でゲストハウスを経営する公立鳥取環境大学4年次の学生は、「用瀬町では、</p> | <p>まちづくりグループ「未来をぼくらの手で」 鳥取支部リーダー 富井 篤 弥</p> |

| | | | |
|--|--|---|--|
| | | <p>現在、様々なイベントや企画、地域おこしを行っているが、大学生をこの地域に連れてこようとしても、移動費の問題から、彼らが来るのをためらってしまう」と話し、現状に頭を抱えている。</p> <p>そして、大学生だけでなく、鳥取市用瀬町、鳥取市河原町、智頭町などの過疎地域において地域振興を担う人々も、この問題に直面している。せっかくイベント等をするための場所や機会があるのに、大学生に来てもらえないと悩んでいる現状があるのである。</p> <p>上述の理由により、私たち「未来をぼくらの手で」においては、鳥取大学と公立鳥取環境大学の大学生による公共交通利用の促進と、それに関わる地域振興における課題を解決するために、日本交通及び日ノ丸自動車の鳥取県東部地区におけるバス路線について、両大学の学生が利用できる無料共通定期券の制度化が、課題解決の方法として望ましいと考えた。</p> <p>なお、この共通定期券制度が実現した場合、次の波及効果が期待できる。</p> <ol style="list-style-type: none">① 路線バスの利便性向上により、大学生のバス利用者数の増加が望める。② 路線バスの利便性向上による利用者増で、運行地域における交流人口の増加が期待できる。③ 路線バスの利便性向上、大学生の滞在時間延長により、運行地域における若者向けイベントの企画や開催が実現しやすくなる。④ 日本交通と日ノ丸自動車とで大学生をターゲットとした連携企画が打ちやすくなる。⑤ バスの沿線である国道53号線沿いなどの地域の魅力や課題などに大学生が直接触れる機会が増え、大学生の移住・定住先の選択肢として我が鳥取県が選択肢に入れてもらえる可能性が増え、空き家対策や遊休農地対策にもつながる。 <p>結果として、将来、沿線地域の経済発展につながる波及効果も期待できる。</p> <p>以上の理由から、私どものグループとして、公立鳥取環境大学及び鳥取大学の大学生を対象とした、日本交通と日ノ丸自動車の鳥取県東部地区における路線バスの無料共通定期券制度の</p> | |
|--|--|---|--|

確立を強く求めるものである。

▶**陳情趣旨**

公立鳥取環境大学及び鳥取大学の大学生を対象とした、日本交通と日ノ丸自動車の鳥取県東部地区における路線バスの無料共通定期券制度を確立すること。